

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(医療専門課程 理学療法学科 昼間部) 令和6年度													
分類			授業科目名	教員名・授業科目概要・目的	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	
○			基礎理化学	板子伸子/矢作浩 理学療法士として一般病院3年間、大学病院7年間、介護老人保健施設8年間、通所施設4年間の実務経験を活かした授業で、前半は理学療法を学ぶ上で必要な理科系知識を振り返る。後半は理学療法士に特に必要となる力学について物理学的な基礎知識から学び、それをどのように用いて人体の運動を理解するのかを手順に従って学ぶ。	1前	30	2	○			○		
○			コミュニケーション論	大和田和彦/矢作浩/板子伸子/増田岳彦 医療従事者のコミュニケーションは、チーム医療の要であり、患者とのコミュニケーションは、治療効果や患者満足度に大きな影響を与える。本科目では、理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、コミュニケーションの基本的スキルを身に付ける。演習及び傾聴の意味を理解し、医療人・社会人として必要な基本的態度を学び、コミュニケーション能力を身につける。	1前	30	2	○			○		
○			人間発達学	増田岳彦 理学療法士として一般病院18年間の実務経験を活かした授業で、子どもの発達を通し、運動獲得の過程を学び動作獲得のための運動療法実施のための背景に役立つように学習を進める。運動獲得と心身の成長について学び関わり方について説明できるようになる。	1前	15	1	○			○		
○			情報統計論Ⅰ	大和田和彦 理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、パソコンを用いた報告書を作成する能力を身につける。また、理学療法実践者として、先人たちの記述した論文を検索できる。	1前	15	1	○			○		
○			情報統計論Ⅱ	大和田和彦/増田岳彦/板子伸子 理学療法士としてそれぞれ10年以上の実務経験を活かした授業で、理学療法実践者として臨床に活かす統計学について解説する。大量のデータの中に存在する法則性を見出し、それらを解釈し意思決定に役立てることができるために、必要な基本を学ぶ。	1後	30	1		○		○		

○			基礎運動学Ⅰ	<p>矢作浩 理学療法士の臨床における評価・治療の土台となる運動器の学問である。理学療法士として診療所1年、老人デイサービス4年、一般病院2年間の実務経験を活かし、以下の授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨、筋肉、靭帯、その他の軟部組織からなる関節構成体の動きの仕組みについて基礎から学ぶ。 ・上肢・下肢・体幹の関節運動の仕組み、および、筋活動と運動や姿勢との関連について知識を深める。 ・小テストを複数回実施し、知識の確認を行う。 	1 前	30	1		○	○					
○			基礎運動学Ⅱ	<p>市川真莉那 理学療法士として総合病院5年間、診療所6年間の実務経験を活かした授業で、身体の運動、動作をそれを生じる力やトルクの視点で説明する力学の一分野である身体運動学(キネシオロジー)や各関節の運動学を通して、内力外力、モーメント、支持基底面等について学ぶ。</p>	2 前	30	1		○	○					
○			医療基礎統合論	<p>矢作浩 理学療法士として診療所1年、老人デイサービス4年、一般病院2年間の実務経験を活かした授業で、これまで学んだ科目(特に解剖学・生理学・評価学)の学習をフォローする目的で概略を学び直す。 さらに3年後の国家試験を見据え、これまで学んだ科目の国家試験問題を解き知識の定着を図る。</p>	1 後	60	2		○	○					
○			人体構造機能学Ⅱ	<p>姉帯飛高 理学療法士として一般病院2年、介護老人保健施設3年の実務経験を活かし、理学療法士の臨床において必須となる運動器(骨・関節・靭帯・骨格筋)の解剖学的特徴を解説する。</p>	1 前	60	4	○			○				
○			人体構造機能学Ⅲ	<p>姉帯飛高 理学療法士として一般病院2年、介護老人保健施設3年の実務経験を活かし、理学療法士の臨床において必須となる神経系(中枢神経系、末梢神経系)ならびに内臓系(循環器、呼吸器、消化器、泌尿生殖器)の解剖学的特徴を解説する。</p>	1 後	60	2		○		○				
○			人体構造機能学Ⅳ	<p>市川真莉那 理学療法士として総合病院5年間、診療所5年間の実務経験を活かした授業で、循環器、呼吸器に関する構造と機能を学び、理学療法実践者としての基礎的な知識を身につける。</p>	1 後	15	1	○			○				

○			理学療法評価学Ⅰ	矢作浩 理学療法を行う上で、対象者の障害を把握することは非常に重要である。 その手段の一つである検査測定についての種類、目的、方法について学ぶ。 本講義では、理学療法士として診療所1年、老人デイサービス4年、一般病院2年間の実務経験を活かした授業で、関節可動域測定、Danielsらの徒手筋力検査、四肢長・周径を中心に実施し、その検査の目的や結果の解釈について理解する。 ・実技テスト・ミニテストを数回実施し、理解・到達度の確認を行う。	1 通	150	5		○	○					
○			理学療法評価学Ⅱ	倉橋智/増田岳彦 理学療法士として一般病院6年間の実務経験を活かした授業で、各症例情報をもとに基礎的知識を確認し、障害像から評価項目の立案、評価方法の検討、さらに正確性・再現性・妥当性のある理学療法評価の実施、評価結果の解釈について展開していく(画像含む)。	2 通	150	5		○	○					
○			整形障害理学療法Ⅰ	矢作浩 機能障害に対する運動療法を学ぶ。整形障害領域の理学療法における基礎的な評価の意味と、理学療法プログラムの選択について、理学療法士として診療所1年、老人デイサービス4年、一般病院2年間の実務経験を活かした授業で、機能形態学・運動機能学の観点から説明ができるようになることを目的とする(画像含む)。	2 後	30	1		○	○					
○			整形障害理学療法Ⅱ	矢作浩 機能障害に対する運動療法を学ぶ整形障害理学療法Ⅰに引き続き、整形障害領域の理学療法における基礎的な評価の意味と、理学療法プログラムの選択について、理学療法士として診療所1年、老人デイサービス4年、一般病院2年間の実務経験を活かした授業で、機能形態学・運動機能学の観点から説明ができるようになることを目的とする(画像含む)。	3 前	60	2		○	○					
○			神経障害理学療法Ⅰ	板子伸子 理学療法士として一般病院3年間、大学病院7年間、介護老人保健施設8年間、通所施設4年間の実務経験を活かした授業で、解剖学・神経内科学で学んだ中枢神経疾患に関する知識を整理・再確認をし、さらに理学療法との関係や意義を理解する。また中枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする(画像含む)。	2 後	30	1		○	○					
○			神経障害理学療法Ⅱ	板子伸子 理学療法士として一般病院3年間、大学病院7年間、介護老人保健施設8年間、通所施設4年間の実務経験を活かした授業で、神経障害理学療法Ⅰに引き続き解剖学・神経内科学で学んだ中枢神経疾患に関する知識を整理・再確認をし、さらに理学療法との関係や意義を理解する。また中枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする(画像含む)。	3 前	60	2		○	○					

○		臨床実習Ⅱ	増田和彦 学外実習および理学療法士が担当する検査・測定の実技体験学習を実施する。一般病院18年間の実務経験の理学療法士を中心に、実習の包括的な指導および学習・評価を行う。	2 通	45	1				○	○	○
○		臨床実習Ⅲ	増田和彦 一般病院18年間の実務経験の理学療法士を中心に、実習指導者のもとで検査・測定技術を確実にするとともに、患者のもつ諸問題のうち理学療法への適応となる問題を把握するため、評価結果から問題点を抽出できるようにすることを目的とする。また、理学療法士として必要な情報収集・記録・報告ができ、さらに医療専門職としての責任ある態度・行動を獲得することを目的とする。	3 後	315	7				○	○	○
○		臨床実習Ⅳ	増田和彦 一般病院18年間の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅰで実習した評価・問題点抽出に加え、目標設定・治療計画立案・基本的理学療法手段の実施という一連の流れができることを目的とする。また、臨床実習Ⅰで明らかになった自分の課題を認識して遂行するとともに、これまで学んだ知識・技術を応用することを目的とする。	3 後	315	7				○	○	○
○		臨床実習Ⅴ	増田和彦 一般病院18年間の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅱで実習した評価・問題点抽出に加え、目標設定・治療計画立案・基本的理学療法手段の実施という一連の流れを、内容を深めて実施することを目的とする。また、臨床実習Ⅱで明らかになった自分の課題を認識して遂行するとともに、これまで学んだ知識・技術を応用することを目的とする。	4 前	315	7				○	○	○
合計				47科目	3240時間							